

JSA-SOL 認証第1号企業インタビュー

東ソー・ファインケム株式会社

編集部

2024年9月20日にJSA-SOLの審査登録交流会、並びに永年登録表彰式を行いました。今回はJSA-SOL（日本規格協会ソリューションズ株式会社）認証第1号の「東ソー・ファインケム株式会社（以下、TFC）」様に、登録30年の振り返りについてお話を伺いました。

— このたびはQMS認証登録30周年受賞おめでとうございます。この30年を振り返って、QMSを長期継続運用する秘訣や今までご苦労された点について教えていただけますか？

TFC：初回認証された約30年前、当社は東ソー・アクト株式会社という名称でした。（1965年に東洋横濱工業と米国ストウファー・ケミカル50:50の合弁会社「有限会社東洋ストウファー・

ケミカル」として設立。2000年に「東ソー・ファインケム株式会社」に社名変更）

当時はISO認証をとるという意識が企業側に乏しい時代だったのではないかと思います。周辺の企業様でそのような動きもなかったですし、そもそも米国にある母体のストウファー・ケミカルですら認証を取得していない状況と聞いております。

ところが、当時の東ソー・アクト株式会社の経営層が、今後の将来を見据えてISOの考え方を導入するといった先進的な決断を下すこととなりました。それに対して、初期メンバーはかなり苦労したという語りが残っています。前例がないことを、親会社よりも先に構築し運用をめざす。無の状況から手探りで思案し、熟慮を重ね、膨大なマンパワーを費やして、QMSの認証に漕ぎつけました。

先人の功績があってこそ今日、30年の振り返りや、30年表彰の受賞式につながっているのです。“30年目の私たち”はタイミングがたまたま良かったからここにいるだけです。先輩の皆様には感謝の気持ちしかありません。

— 30年前の苦労話が脈々と引き継がれていたり、それに対する先人の方々への感謝の思いが素晴らしいですね。

TFC：ありがとうございます。2017年の3社合併による新生東ソー・ファインケム発足前の状況ですが「東ソー・ファインケム株式会社（上述の





とおり)「東ソー・エフテック株式会社(1975年日本ハロン株式会社として設立、のちに社名変更)」「東ソー有機化学株式会社(1981年設立)」と独立した3社がそれぞれのQMSを運用していました。

各々の会社のQMS運用にはそれぞれの歴史や蓄積がありましたし、そもそも審査登録機関も統一されておらず、QMS文化の大きな違いを痛感しました。それぞれが使用する言葉の内容やニュアンスが違うといった齟齬も散見されたのです。それぞれの組織においてフェーズ、レベルが違うところがあるので、そこをいかに合わせるかにも配慮が必要でした。

言わば膨大な戸惑いを抱えた状況でしたが「3社の合併統合」は先に決定していましたし、おのずと「ISO認証の統合・拡大」及び「ISO 9001:2015移行審査」の達成期限も定まりましたので、それに合わせた取組みに注力せざるを得ない状況でした。

まずはじめに「1からマニュアルを作り直すのか?」という議論がありました。早々に断念しました。先にお話した三者三様のQMSを刷新し、さらにISO 9001:2015に対応させるには到底時間が足りないかと判断したからです。

結果的に、我々は東ソー・ファインケムの重厚なQMSマニュアルを一次文書としました。そして別会社の二次文書類、これがシンプルかつ下位文書とのつながりやワークフローなど実務的な流れが明示されている書式でしたので、全社共通文書や手順書をこの一番シンプルな書式に合わせ込むといった方法論で新生東ソー・ファインケムの

QMSの刷新を完遂させました。

— 一言で「30周年」といっても、大変なご苦労や、工夫による変化への対応を行ってきた姿がうかがえました。

ところで、40、50周年を見据えた今後のQMS運用の課題について教えていただけますか?

TFC: いつまでも同じことを行い、維持しているつもりでいても、結局時間がたったら陳腐化していきますから、それなりに手は加えていかなければならないと考えています。

それがどうなる形になるかは、我々(品質保証)の思いもあれば、他の部門の考えもあるので、うまく部門間の調整や、コミュニケーションをとりながら運用できればいいのかなと思います。

— この先御社が40、50、100周年を目指すにあたって、JSAに望むこと、期待することはありますか?

TFC: これは私の思いですが、私がQMSの審査に関わり始める以前は「審査は「合否判定」が行われる審議の場」「とげとげしい雰囲気」の場」との先入観がありました。

しかし、実際に審査に参加した際に感じたのは「審査員とのフレンドリーな会話の場」でした。また、審査員と会話を重ねる中で「あれを実施したら、もっと良くなる」「あそこをちょっと工夫したら、もっと良くなる」といった、我々のQMSのレベルアップにつながる「気づき」を得る場面に遭遇することがたびたびあったのです。これについては非常にうれしく、感謝しています。

当然、ダメな部分は指摘を受けるのですが、指



摘を受けることのショックよりも、審査員との対話の中から「気づき」が得られることに対する満足感のほうが勝っていました。

今後の審査も、「認証を維持する審議の場」としてだけでなく「我々が勉強する時間」「我々の成長を促す機会」として提供し続けてほしいですね。

最後に一言ですが、このたびの30年表彰につきましては、一般財団法人日本規格協会様、日本規格協会ソリューションズ株式会社様、並びに東ソー・ファインケム株式会社、東ソー有機化学株式会社、東ソー・エフテック株式会社の現役社員・先輩の皆様の尽力の賜物でございます。本日はありがとうございました。

最後に、「東ソー・ファインケム株式会社」様に永年登録30年を記念しご登壇いただき、「QMSの取組み状況や今後の課題」について発表していただきました。その際の資料を掲載しましたので併せてご覧ください。



持永 忠
MOCHINAGA TADASHI

環境保安・品質保証部長。1987年九州工業大学工学部卒業。同年東ソー株式会社に入社。南陽事業所でセメント製造スタッフ。2008年東ソー・エスジーエム株式会社出向。2014年東ソー南陽事業所環境保安・品質保証部環境管理課長。2020年東ソー・ファインケム株式会社出向。環境保安・品質保証部長に就任し現在に至る。

佐藤 泰輔
SATO TAISUKE

環境保安・品質保証部品質保証課長。1999年大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了。同年東ソー株式会社に入社後、東ソー・アクト(現東ソー・ファインケム)株式会社出向。主に研究開発部門において有機化学製品の研究開発に従事。2014年東ソー有機化学(現東ソー・ファインケム)株式会社出向。2021年品質保証課長に就任し現在に至る。